

2012 年度「法政学への招待」

最終回「法政大学と私たちの未来を考える」グループワーク成果より

学生が考える「10年以内に法政大学に実現してほしいこと」

《授業・履修・正課外学習》

- ・他学部のゼミや講義の選択をもっと可能にしてほしい。
- ・意欲がある学生にチャンスを与えてくれる大学というコンセプトをもとに、他学部公開科目を増やすこと、留学への支援の増加を提案します。検討よろしく願いいたします。
- ・リベラル・アーツ（市ヶ谷基礎科目）の発展・強化（コマ数は減らし、少人数で内容の濃いものに）。同時に空いたコマを早期の専門教育、ゼミなどに充てる。
- ・1年次からゼミを開講、より専門的にする。
- ・先生との距離をより近くしたい。低学年のうちから専門科目が取れるようにしてほしい。
- ・大学生活を送る上で「自由」の意味を考える授業をつくる。

《校風・マナー》

- ・学生の意見を大切にす大学になってほしい。決まったことをただ伝えるのではなく、決める段階で学生を入れる、もしくは決定事項を学生が理解できるように説明する姿勢を大切にしてください。
- ・法政国会をつくる。学生と教授と職員、三位一体で定期的に話し合える法政大学に。学生の声をもっと大学に反映して、入学したい大学No.1に！
- ・校風として自由・自立を掲げているにもかかわらず、学生のマナーが低下していると感じるため、教室や学食でのマナーを啓発することが必要。
- ・3キャンパスの自由な交流があまりされていないので、多摩・小金井で（法政カラーでエコぴょんとも通じ合う）にんじんを市ヶ谷の学生も協力して栽培し、神楽坂祭りなどで販売したら地域との交流にもつながると思います。
- ・こうした提案を大学側も柔軟に実現に向けて動いてほしい。

《施設・設備》

- ・校歌の碑をつくって学生の目に触れやすくする。
- ・（大学史上重要な人物の）銅像（胸像ではなく）を造る。
- ・法政の良さを共有できる場所をつくろうという提案です。現状として、能楽研究所にしても沖縄文化研究所にしても、強いモノを持っているのにその良さを知らない学生が多い。
- ・自然だけではなく、人間にも優しいということでバリアフリー設備を充実させる。

《国際交流》

- ・派遣留学制度の採用枠を増やしてほしい。Buddy 制度はいいと思いますが、採用人数を増やしてほしいです。
- ・現行の派遣留学制度では3年後期からしか留学できないため、もっとフレキシブルな制度がほしい。
- ・留学生との交流の場を増やす。外国語はネイティブの先生を増やす。
- ・海外にも法政の校舎を作る。学部やスコアのしぼりがある留学をもっと身近なものにしたい。

《その他》

- ・学部を超えた交流として体育祭を開いてほしいです。そのためにグラウンドを！
- ・国際政治学科と国際経済学科で、国際政治経済学部をつくる。
- ・(体育会に) 強い選手が入れるよう学費などの減額をしてほしい。
- ・昼休みをなくす→昼休みを自分で決められるので、学食の混雑が緩和される。

【感想】

- ・法政大学の将来を考えることで自分のやるべきことも見えてきたと思います。
- ・はじめて真剣に法政の未来について考えた！総長賞を取れなかったのは残念でしたが、チームで話し合っただけでプレゼンテーションをするという過程がおもしろかったです。
- ・学部や学年の違う皆さんとディスカッションをして、プレゼンテーションをすることはとても新鮮で、刺激を受けました。先輩たちに引っぱってもらって、私自身は全然力になれなかったと思いますが、私も先輩方のように法政大学を真剣に考えることのできる学生になりたいと思いました。
- ・総長が私たちの話を聞く機会を設けてくれる法政大学は素敵だと思いました。